

**製品名: RPA32/RPA2 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21449**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:1000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:29kD;Observed MW:29kD

**抗原情報**

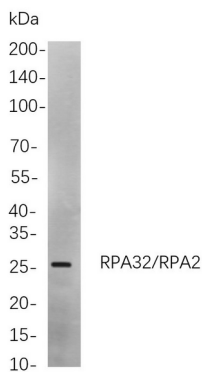
遺伝子名	RPA2
別名	RPA2;REPA2;RPA32;RPA34;Replication protein A 32 kDa subunit;RP-A p32;Replication factor A protein 2;RF-A protein 2;Replication protein A 34 kDa subunit;RP-A p34
遺伝子 ID	6118.0
SwissProt ID	P15927
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

**背景**

細胞局在: 核。機能: DNA の組み換え、修復、複製に必須。RP-A の活性は、一本鎖 DNA 結合とタンパク質相互作用によって媒介される。PTM: 細胞周期依存的に (S 期から有糸分裂まで) リン酸化される。DNA 損傷時に ATR によってリン酸化され、核フォーカスへの移行を促進する。in vitro では、Ku および DNA 存在下で PRKDC/DNA-PK、および CDC2 によってリン酸化される。細胞内局在: PML 核小体にも存在する。DNA 損傷時に個別の核フォーカスに再分布する。サブユニット: 70 kDa、32 kDa、および 14 kDa 鎖のヘテロ三量体。DNA 結合活性は 70 kDa サブユニットにのみ存在すると考えられる。SERTAD3/RBT1 に結合し、TIPIN と相互作用する。

## 研究分野

## 画像データ



RPA32/RPA2 ウサギ mAb を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。  
抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。